

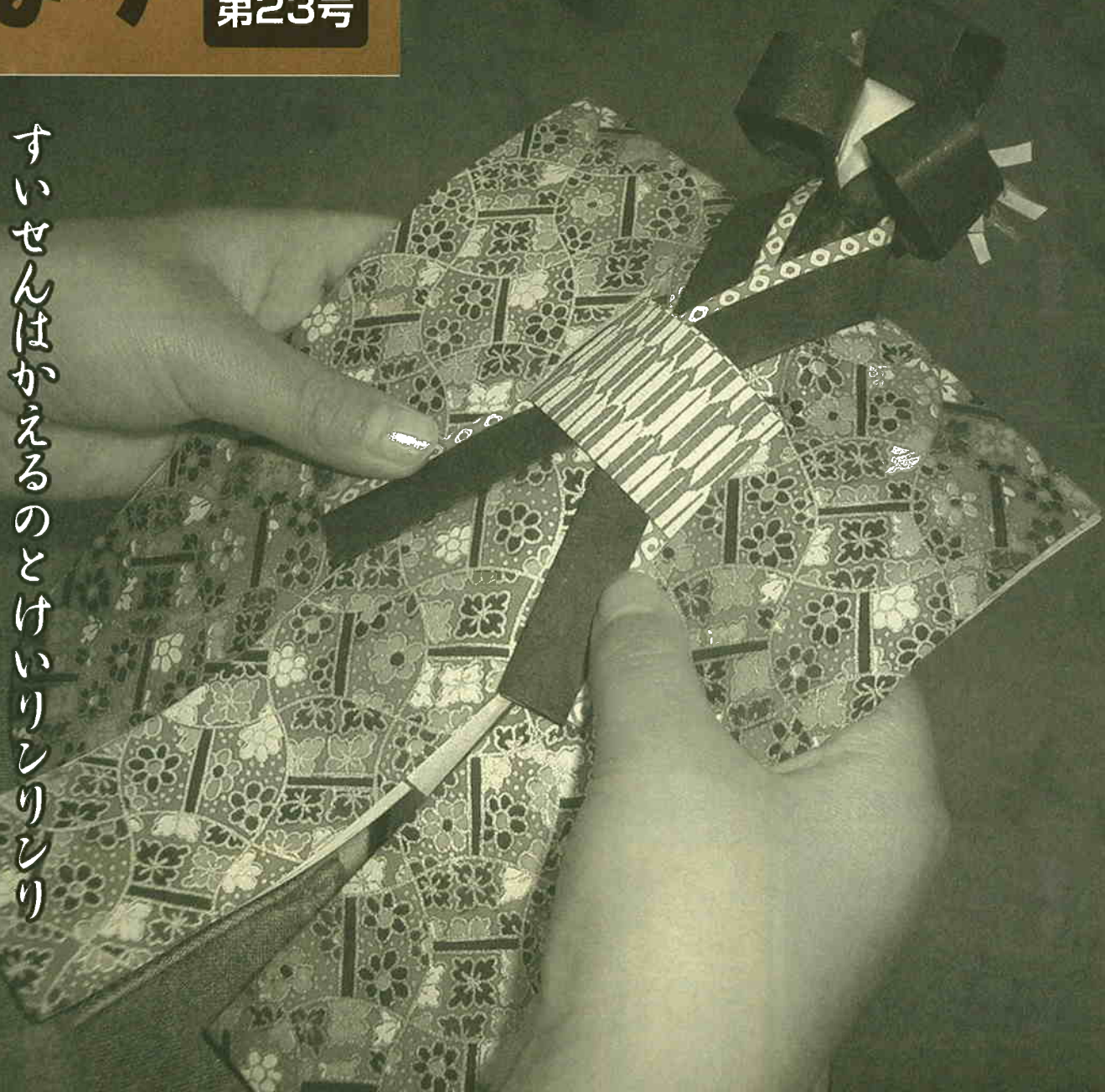
奥会津 だより

2004年春
第23号

紙雛に 託す願い

すいせんはかえるのとけいりりりりりり

馬場 琴菜 (伊南小)



奥会津つれづれ

最近、近くの古本屋で見つけた本がある。昔アニメで見ていたムーミンの話だ。

ムーミン一家は冬の間はいつも冬眠して過ごすのだが、その冬はムーミンだけが起きてしまったので、春が来るまでは谷の仲間達と過ごすという話だった。ムーミンは最初、冬を寒くて暗くて寂しいからとても嫌う。スキーもうまく滑れないし家族もみんな眠っているからおさらだ。だけど冬から春に変わる頃には、冬を楽しめるようになる。そしていよいよ春が来てみんなが起きたすと、ムーミンはあんなに嫌だった冬を懐かしそうに思い出している。

私はついムーミンと自分を重ねてしまう。自然の側で暮らすことは楽しいことだけではない。雪も雨も晴れの日も、やりたいことはやるぞと外に出ても、長靴が雪で全部埋まってしまうと、そうもいかない。冬の晴れた日は好きだけれど、ビュービュー吹きつける風の音は今でも怖いと思う。でも、そんな冬が長くて嬉しいものだからこそ、春が訪れるのはなおさら待ち遠しいし、冬の日をふと思いつく時もあるのだと思う。

あと一月もすれば、私が戻ってきた日と同じような残雪の風景になる。変わらないこともあるけれど、季節は確かに巡っているのだ。

(治)

～15年度に行われた大きなイベントを報告します～

第8回歳時記の郷 奥会津 全国俳句大会
平成15年8月30日・31日

檜枝岐村の東雲館を会場に、全国から約三百名近い参加者を迎えて、特別賞句の表彰、講評を行い、選者の先生方の俳句談義に耳をかたむけました。夕刻からは鎮守神社の舞台で、千葉の家花駒座による寿式三番叟と藤の和芸能保存会による大神楽を見学。翌日の囀目吟では、檜枝岐歌舞伎の息吹を実感した句も多く作られました。

二日目は、当日句の表彰・講評のあと、ドイツ文学者の池内 紀先生が「自然」の言葉と題して基調講演。ドイツにも季語に似た言葉があるという興味深い話に、俳句と異文化とのつながりを新たに発見しました。

特別賞句は次の通りです

- 【歳時記の郷・奥会津俳句大賞】福島県 二瓶 清七
どの家も母の声して盆の宵
- 【歳時記の郷・奥会津俳句大賞準賞】千葉県 斎藤 節子
枉げ輪つば厨に乾き獵期終ふ
- 【只見川電源流域振興協議会賞】福島県 近野 咲子
空弁当野焼きの匂ひしてゐたり
- 【柳津町長賞】群馬県 桜井 映夫 芝根南
麦畑つんつん母が沈みゆく
- 【三島町長賞】神奈川県 高松 久代
弁慶の見得羽子板をはみ出しぬ
- 【金山町長賞】千葉県 小林いさを
ひたすらに春追い越して雲辺寺
- 【昭和村長賞】群馬県 笠原 十一(悠保)
十葉を干して余生の夢捨てず
- 【只見町長賞】広島県 小山 知里
大きな手見せ合ふ田垣日和かな
- 【南郷村長賞】埼玉県 川辺 了
故郷は寝れば蕩児に団扇風
- 【伊南村長賞】栃木県 井上 昌子(薫子)
一つ家のひと間を灯すそばの花
- 【館岩村長賞】栃木県 渡辺 キン子
白むくげ弟がいた疎開の日
- 【松枝岐村長賞】岐阜県 小林紀代子
水分の神に一礼藤探

大賞受賞者 二瓶清七さんの声



八十七歳で身体不意のため参加できずに失礼いたしました。他界した妻への鎮魂の意味も込めて詠んだものです。はからずも大賞をいただき、ありがとうございます。皆様のご健闘を祈り上げます。

第8回歳時記の郷・奥会津 フォトコンテスト
平成16年1月31日

この日、南郷村さゆり会館において、奥会津フォトコンテストの表彰式が行われました。今回は、個人部門・グループ部門合わせて、1086点の応募がありました。その中で、入選された方々は次の通りです。本当におめでとうございませう。

- 【個人部門】
 - 【グランプリ】 こじまじゅん 『秋の日』
 - 【準グランプリ】 高田隆子 『里の秋』
 - 中西美那子 『秋の渓谷』
 - 【審査委員長竹内敏信賞】
 - 上川順子 『水映変化』
 - 本田安正 『初秋の美り』
 - 【榊原透雄賞】 清水政一 『仲良し』
 - 堀江克彦賞 酒井なみ 『雪さらし』
 - 【柳津町長賞】 長澤和正 『雪面模様』
 - 【三島町長賞】 五十嵐一二 『春光』
 - 【金山町長賞】 佐藤美智子 『雪の里』
 - 小島道男 『潤いの朝』
 - 【昭和村長賞】 淀川潤 『夏の峠路』
 - 【只見町長賞】 蓮尾栄一 『南郷の朝』
 - 【伊南村長賞】 保坂美枝 『秋の明暗』
 - 【館岩村長賞】 高橋孝子 『山里の春』
 - 【檜枝岐村長賞】 青木勝美 『瀑布』
 - 【富士フィルム賞】 菅家亮 『虹の架かる里』
 - 【フレームマン賞】 木村務 『よさこい踊』
 - 【入選】 久保鐵男 『終演』、黒米昭秀 『葉炎の谷』、佐川栄治 『近づくと足音』、佐々木節子 『スペインコール』、鈴木國雄 『朝霧湧く』、高田

個人部門グランプリ作品



こじまじゅんさんの声

カラーの風景作品が多い中で、モノクロ・ポートレートで入賞できたのがうれしかったです。

グループ部門グランプリ作品



PC大沢 代表 五十嵐一二さんの声

3人での受賞というのがなによりうれしいです。

健二『紅蓮の秋』、西方功治『早春』、星武男『奥会津日の丸模様』、星廣人『溪流』、松山伝『陽の当る晩秋の玉川』、安井博道『明けの』

【グループ部門】 PC大沢『奥会津彩々』

【準グランプリ】 オーバルPC『山里の守神』

大樹B『里の春』

【学研CAPA賞】 FCおんべ『四季の彩り』

【写真弘社賞】 フォトサークル四季

【フォトテクノ賞】 PCイオ『豊かな自然』

表彰式では、九町村長賞の副賞品が発表されると、時折どつと笑いが起きるなど、和やかな雰囲気の中で行われました。表彰式の後には、竹内敏信先生の講演会「日本人の原風景―天地―」が行われました。実際に撮影したスライドを映しながら撮影された時の撮影方法やエピソードが語られ、失われつつある日本の原風景を撮り続ける力強い姿勢が伝わってきました。

その後は、さゆり会館で、受賞者と雪の撮影ツアーの参加者、町村長や審査委員を交えての交流会を行いました。ステージでは、本名祐雄南郷村長や審査委員の先生から挨拶があり全国各地からの参加者と交流が深まりました。

なお、今後入選作品は、各町村での展示を行う予定です。お出かけの際には、是非ご覧下さい。



第1回作品 撮影者：遠藤 清 撮影地：柳津町



第3回作品 撮影者：大槻太一 撮影地：昭和村

奥会津
とっておきの
風景

フォトコンテスト入賞作品より
★詳しい撮影場所は協議会のHPへ

春の妖精たち

日当たりのいい土手から雪が消えていく。この時期は土の匂いが懐かしくてうれい。

残雪を従えた土手に真っ先に咲く花の中でも、キクザキイチゲの可憐な白さは、まさに春の妖精。陽光を求めて両手を広げ、花びらを一杯に開かせる昼間の姿。花びらを丸く閉じて、うつむいている朝・夕の姿。霞こぼしのようにひっそりと土手を彩る春の妖精たちは、雪解けと同時にやってくる。

撮影・山浦 芳明
三島町



奥会津の観光スポット

SPOT2 水芭蕉としらかばの杜 (昭和村)



博士山の麓にある自然の杜は、国道401号線に面して、車の中からもその見事な景観に触れることができる。芽吹く前のしらかばの根元を覆う数万株の水芭蕉が、残雪の中から次々に白い姿を見せるのは4月下旬頃から5月下旬頃まで。

しらかばの柔らかな緑は、6月初旬、初夏の陽光にきらめきを増す。杜の散策を促す自然のままの遊歩道を分け入ると、そこはすでに別世界。鳥の声や小川の水音を聞きながら、時を忘れてしまいそうだ。

東屋でお弁当を広げている姿が車窓から見えると、つい車を止めたくなるような美しい場所である。

SPOT1 曲家集落 (館岩村)



雪深い奥会津で、馬と人間が共に住む暮らしの工夫が見える曲屋。藁葺きの独特の屋根が連なる一角は、周囲を畑に囲まれて、農村ののどかな空気が漂っている。集落にはミンジャ（水洗い場）と水路が巡らされていて、かすかな水の音が聞こえてくる。雪から開放された曲屋集落は、これからの春の百緑の中で一層ひなびた風景を作り出す。

ミンジャで山菜を洗う姿には、かつての農村の原風景を見る思いがする。



第1回作品 撮影者：斉藤一夫 撮影地：伊南村



第6回作品 撮影者：木村 務(フォト杉並木) 撮影地：館岩村



第4回作品 撮影者：淀川 潤 撮影地：金山町

トチつけえ

添加物を一切排した雑穀だけの、まさに原初の味。トチ餅を作る過程で、辛味や苦味の状態をみるという意味もある。

奥会津のいのちを支えたかつての代用食は、今、その素朴で深い味わいで人々を魅了する。まさに縄文の味。

トチの身は苦味や辛味が強く、そのままでは食用にはならないため、一週間ほど冷たい流水に晒し、木灰（ナラヤリンゴなど）でアクを抜く（アク垂れ）必要がある。実が実際に口に入るようになるまでには、気が遠くなるような手間をかけなければならぬ。



作り方
アクを抜いたトチの実を、火にかかっている鍋の湯を捨て、新しい水に代える。これを5、6回繰り返して、最後は強火でやわらかくなるまで煮て、皮をすくいて取る。そこにモチキビを加えて、モチキビがとろとろになるまで煮る。

つと豆腐

祝い膳を賑わす一品で、ワラの筒こに詰めて蒸した豆腐は、余分な水分が抜けて日持ちもする。さまざまな具が彩りよく、舌触りもなめらかだ。

それぞれの村や町で手作りされる豆腐は、風味も味わいもそれぞれにこだわった逸品ぞろいだが、ただでさえおいしい地の豆腐を使って家庭で作られるのがこの料理。そのままでも美味だが、輪切りにして切り口に薄く片栗粉をまぶして油で揚げ、おろし醤油で食すのもよい。



作り方
豆腐に重しをかけてよく水分を抜き、松の葉を少量加えて混ぜ合わせる。ワラの筒に詰めて蒸し上げる。サラップを敷き、水分を抜く。枝などで穴をあけてもできる。

博物館・美術館めぐり



奥会津南郷民俗館（南郷村）

蕨茸きの水車小屋を眺めながら館内に入ると、かつてこの地域で盛んだった麻織り用具や麻織物、伊南川での漁撈具、奥会津の暮らしを物語る燈下用具など、約4,000点が展示保存されています。敷地内には、裕福な農家であった旧名主の山内家と、曲屋の斎藤家、2軒の民家が移築されていて、当時の暮らしが偲ばれます。

- 開館日 ... 4月26日〜11月25日
- 入館料 ... 300円（一般）
- TEL ... (0241) 73-2829

イベント告知板

新しい雪の遊びを体験してみませんか。

- ①スノーパーク★雪の上をラフトボートやチュービングで滑る遊びです。
ユージングで滑る遊びです。
3月13日(土)・14日(日)
13日(土)〜午前9時から午後4時まで
14日(日)〜午前9時から午後3時まで
- ②スノーラフティング大会
★300メートルのコースでタイムレース
3月20日(土)・21日(日)
○午前10時から12時まで
○午後1時から午後2時30分まで

- ③スノーシューツアー
★スノーシューを履いて山や畑道を歩きます。
3月13日(土)・20日(土)
○午前10時から ○午後1時から
14日(日)・21日(日)
○午前9時半から ○午後12時半から

- ※ツアー時間は約2時間となります
- ◆大自然満喫コース〜リフトを利用してスキー場中腹より森に入っていくコース
- ◆雪国満喫コース〜農村を眺めながら平坦な畑道を行き、農村歌舞伎の舞台を訪れます。
- ※当日の参加状況により、こちらでコースを決定します。
- ＜料金＞ 2000円
- (リフト使用料を別途ご用意下さい)

- ＜準備物＞ スキー・スノーボードウェアなど防寒防水コート、グローブなど。靴はスノーブーツ、登山用靴、長靴など。(無料レンタルもあります)
- ＜予約＞ 高畑スキー場インフォメーション
- ＜場所＞ 高畑スキー場インフォメーションセンター又はスノーパーク受付
- ＜申込み＞ 高畑スキー場インフォメーション

伊南村役場企画振興課
電話0241-76-2231
電話0241-76-7715
春が近づく奥会津に遊びにきてください！

冬の三島町満喫ツアー参加者募集
昨年9月、国指定伝統的工芸品となった「奥会津織み組細工」の技に触れることができる奥会津の生活を体験してみませんか。

- ＜日時＞ ①3月19日(金)から20日(土) ②3月20日(土)から21日(日)
- ＜募集人数＞ ①②とも20名程度
- ＜宿泊先＞ 森の校舎「カタクリ」
- ＜参加料＞ 10,000円(宿泊・体験料込)
- ＜ツアー内容＞ ○第3回全国編み組工芸品展・第23回生活工芸品展の見学
- 工人とのふれあい、スノーシュー体験、郷土料理・そば打ち体験など
- ＜申込み・問合せ＞ 三島町役場企画課 0241-485533
- ＜締切＞ 3月12日(金)まで

歳時記の郷・奥会津ウオーク開催

- 奥会津を、歩いてみませんか！
車の中では気付かない奥会津の春を体験！
- ①第4回会津高原しらかばツアーウオーク
＜日時＞ 5月15日(土)・16日(日)
＜場所＞ 南会津郡岩館村
会津高原たかつえスキー場スぺシア前
- ＜申込み・問合せ＞ 会津高原しらかばツアーウオーク実行委員会 電話0241-782546
- ②第4回歴史と文化のやないづウオーク
＜日時＞ 5月23日(日)
＜申込み・問合せ＞ 歴史と文化のやないづウオーク実行委員会 電話0241-422114
- ③第3回湯浅道秋の里かねやまツアーウオーク
＜日時＞ 5月29日(土)・30日(日)
＜場所＞ 大沼郡金山町
- ＜申込み・問合せ＞ 金山町商工会 電話0241-542311

表紙の言葉

紙人形のひなたちは、三島町・高清水集落の子供たちが一軒一軒集めて、ひな祭りの翌日、木箱に積んで只見川に流す。女性たちの厄を移した紙雛は、川を流れて遠く淡島様まで代参してくれると信じられてきた。水の流れるに厄を委ねる雅な風習は、金山町の小栗山、大志地区にも残っている。